



小児科オンライン

<https://syounika.jp>



産婦人科オンライン

<https://obstetrics.jp>

令和2年度補正遠隔健康相談事業体制強化事業（小児・産婦人科専門窓口）

最終報告（公開用）

株式会社Kids Public



令和2年度補正遠隔健康相談体制強化事業（小児・産婦人科専門窓口）事業概要

ー産婦人科・小児科オンラインー

運営会社	株式会社Kids Public（東京都千代田区）
代表者	株式会社Kids Public 代表取締役、小児科オンライン代表 橋本直也（小児科専門医, 成育医療等協議会委員, 健やか親子21推進協議会幹事） 産婦人科オンライン代表 重見大介（産婦人科専門医）
事業開始年	2015年 会社設立, 2016年 小児科オンライン開始, 2018年 産婦人科オンライン開始
特徴	157名の小児科医、産婦人科医、助産師による小児科、産婦人科に特化した遠隔健康医療相談
受賞歴	2017年 第6回 健康寿命をのばそう！アワード厚生労働大臣賞、第11回キッズデザイン賞経済産業大臣賞 2019年 第13回キッズデザイン賞キッズデザイン協議会会長賞
学術業績	東京産科婦人科学会会誌など論文3,日本小児科学会学術集会など学会発表13（2020年9月現在）
目標	妊娠・出産・子育てにおいて誰も孤立しない社会をつくる
設置期間	令和2年5月1日-8月31日
期間中相談対応総数	リアルタイム相談 12,213件, いつでも相談 24,203件

主な機能

	リアルタイム相談	いつでも相談	医療記事配信
概要	LINEアプリもしくは電話を使用してビデオ通話、音声通話、メッセージチャットから産婦人科医、小児科医、助産師へリアルタイム相談。1枠10分間。 対応時間：16-23時（土曜日以外）	24時間好きな時間に専用フォームからメッセージで相談内容を質問し、24時間以内に産婦人科医、小児科医、助産師が回答。写真添付可能。 対応時間：24時間（毎日）	産婦人科医、小児科医、助産師が執筆した医療記事「産婦人科オンラインジャーナル」「小児科オンラインジャーナル」を受信希望者に定期的に配信。現在280本強の記事があり、継続的に追加中

イメージ



写真も送信できます



知っておきたい！子どもの“息が苦しいサイン”
かぜやぜんそくのお子さんの保護者の方へ

2018年9月17日 syunkaonline
呼吸器、救急 橋本真理子



書いた人 橋本 真理子
小児科医



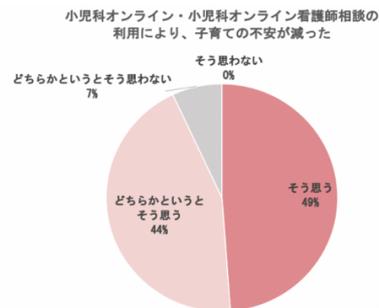
産婦人科・小児科オンライン—これまでの成果—

都市部における育児不安軽減

2018年横浜市ソーシャル・インパクト・ボンド (SIB) モデル組成等委託業務

- 横浜市港北区において実施した調査結果
- 4か月間の小児科オンライン利用
- 利用者の93%が終了時に行なった調査にて「子育ての不安が減った」と回答

※2018年10月～2019年1月まで港北区在住の0歳第一子を育てる家庭向けの子育て支援サービスとして小児科オンラインを無料提供し、利用後のアンケートを実施した。回収率 75%(43/57名)

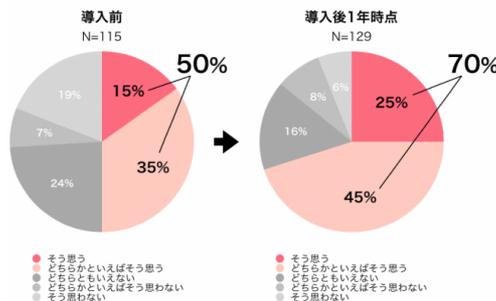


非都市部における医療アクセス格差是正

小児科医、産婦人科医不在の自治体である埼玉県横瀬町において町とともに調査を実施

- 小児科オンライン導入1年で「お子さんの病気に関して相談できる小児科医が身近にいる」と感じる住民の割合が 20%増加

※小児科オンライン導入前後で町内の未就学児を育てる保護者へ質問紙調査を実施、事前アンケート 回収期間 2018/5/10-2018/6/13, 回収率 115/125=92%, 事後アンケート 回収期間 2019/5/27-2019/6/20, 回収率 129/154=84%

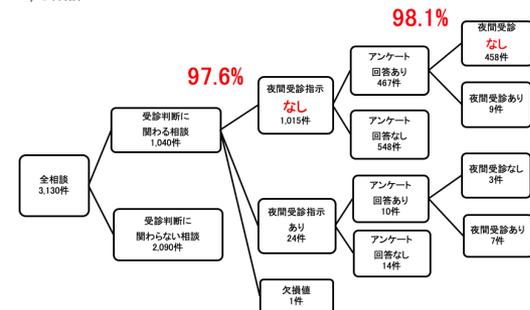


小児夜間救急受診の適正化

2020年第123回日本小児科学会学術集會にて記述研究の結果を発表

- 小児科オンラインにおける受診判断に関わる相談のうち97.6%に夜間の緊急受診は不要とアドバイス。そのうち98.1%はアドバイス通り夜間の緊急受診を控えた
- 見逃しによる緊急入院はなし

※2018年6月から2019年1月までに小児科オンラインに寄せられた3,130件の相談および利用者に対して翌日に実施しているウェブアンケート (回収率 46%)を集計



都市部における産後うつ予防

2019年横浜市ソーシャル・インパクト・ボンド (SIB) 事業の組成に向けた母親の不安解消事業

- 東京大学大学院医学系研究科 公共健康医学専攻臨床疫学・経済学教室が成果評価に参画
- 妊娠後期一産後3か月まで産婦人科・小児科オンラインを利用
- エジンバラ産後うつ病質問票において産後2ヶ月時点での陽性者（最高30点のうち9点以上だった人）は11.9%だったが、産後3ヶ月時点での陽性者は3.6%に減少

※産後3ヶ月産後うつスクリーニング調査票：83名（回答率75%）

産後うつスクリーニング陽性者割合

産後2か月

11.9%

産後3か月

3.6%

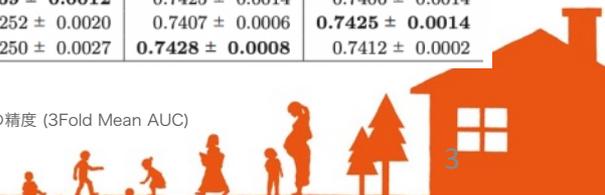
緊急度を予測する機械学習手法に関する研究

2020年6月に行われた第34回人工知能学会全国大会において発表

- 小児科オンラインの事前相談文章（自然言語）などから「相談に対して小児科医が24時間以内の受診を勧めるか否か」を推定する手法の開発・実験
- 使用したデータ：小児科オンラインにおいて対応した6,911件の事前問診と医師の相談カルテ記載のデータセット
- AUC0.74という精度を記録

Methods	Data Size 30%	Data Size 70%	Data Size 100%
Logistic Regression	0.7185 ± 0.0001	0.7254 ± 0.0003	0.7213 ± 0.0000
LightGBM	0.6546 ± 0.0019	0.7367 ± 0.0012	0.7357 ± 0.0011
Base Neural Network	0.7015 ± 0.0085	0.7306 ± 0.0006	0.7336 ± 0.0017
Co-Teaching	0.7208 ± 0.0046	0.7424 ± 0.0010	0.7399 ± 0.0008
Co-Teaching+PSDR	0.7269 ± 0.0012	0.7425 ± 0.0014	0.7406 ± 0.0014
Co-Teaching+PDLDR	0.7252 ± 0.0020	0.7407 ± 0.0006	0.7425 ± 0.0014
Co-Teaching+PSDR+PDLDR	0.7250 ± 0.0027	0.7428 ± 0.0008	0.7412 ± 0.0002

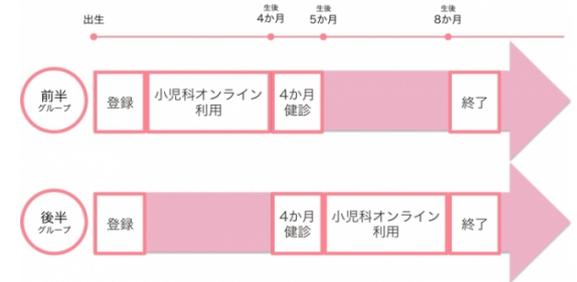
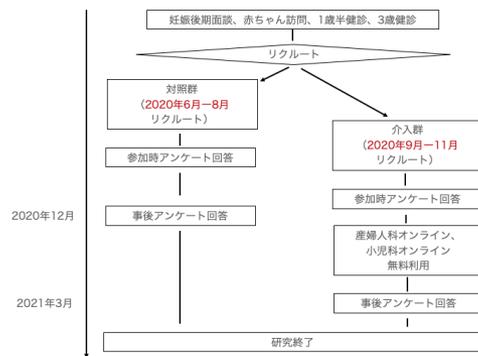
各手法の精度 (3Fold Mean AUC)



産婦人科・小児科オンライン参加中、解析中の研究一

	へき地における医療アクセス格差是正の検討	産後うつ減少の検討	乳児の皮膚状態改善、育児ストレス減少の検討
ステータス	参加中	参加中	解析中
フィールド	山口県美祢市、長門市	横浜市港北区	横浜市栄区
期間	2020年6月1日-2021年3月31日	2020年9月1日-2022年3月31日	2017年11月1日-2019年2月28日
研究機関	山口県立総合医療センターへき地医療支援部	東京大学大学院医学系研究科	国立成育医療研究センター政策科学研究部
研究種類	厚生労働省科学研究費研究	横浜市ソーシャルインパクトボンド (Social Impact Bond: SIB) モデル事業	栄区セーフコミュニティおよびリビングラボの取り組み
目的	オンライン医療相談はへき地において小児科医、産婦人科医、助産師へのアクセス格差是正に貢献するか	産前から産後までの切れ目ないオンライン医療相談の提供は産後うつを減少させることができるか	産後直後のオンライン医療相談提供は乳児の皮膚状態の改善、母親の育児ストレス減少に貢献するか
研究デザイン	非ランダム化介入研究	ランダム化比較試験 (RCT)	ランダム化比較試験 (RCT)
介入	産婦人科・小児科オンラインの登録、無料利用	産婦人科・小児科オンラインの登録、無料利用	小児科オンラインの登録、無料利用
参加タイミング	妊娠後期面談、赤ちゃん訪問、1歳半健診、3歳健診	母子健康手帳交付時	出生連絡票提出時
目標参加人数	230-265名	720名	300名
主要アウトカム	疑問や不安があったときに相談できる産婦人科医、小児科医、助産師を身近に感じる母親の割合	産後3か月時点でのエジンバラ産後うつ病質問票 (EPDS) のスコア	4か月健診時の母親の育児ストレス：Parenting Stress Index Short Form (PSI-SF) およびGeneral Health Questionnaire-12 (GHQ-12)、4か月健診時の児のアトピー性皮膚炎の有症率

研究の流れ



令和2年度補正遠隔健康相談事業体制強化事業（小児・産婦人科専門窓口）
期間中（2020.5.1-8.31） 相談内訳, 分析



相談数内訳

	小児科医		産婦人科医		助産師		総計		
	件数 (件)	%	件数 (件)	%	件数 (件)	%	件数 (件)	%	
リアルタイム 相談	LINEメッセージ	3,200	15	1,812	18	457	10	5,469	15
	LINE音声通話	1,983	9	1,274	13	837	18	4,094	11
	LINEビデオ通話	1,645	8	40	0	78	2	1,763	5
	電話	249	1	466	5	172	4	887	2
いつでも相談	14,768	68	6,341	64	3,094	67	24,203	66	
総計	21,845	100	9,933	100	4,638	100	36,416	100	

結果

いずれの相談分野においても「いつでも相談」が占める割合が最多だった

小児科医への相談において「LINEビデオ通話」を選択する割合が他に比べて高かった

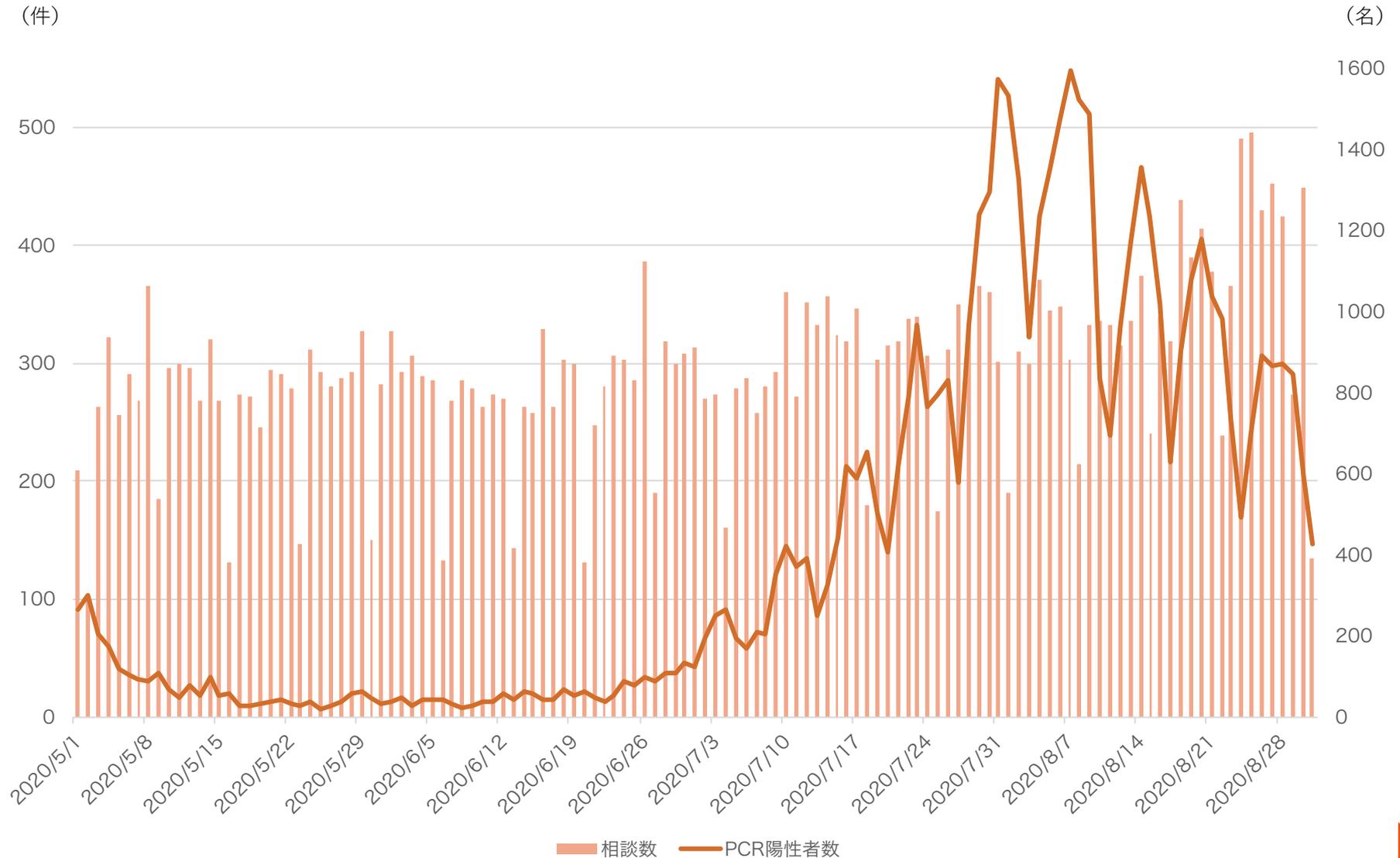
考察

「いつでも相談」の割合が高かった背景として、「リアルタイム相談」は予約制かつ7時間限定対応であったが、「いつでも相談」は予約不要かつ24時間対応していた影響があると考えられる

小児科医に対しては「子どもの様子を見せたい」という保護者のニーズがあり、他の相談先に比べてビデオ通話の利用が多かった可能性が考えられる



新型コロナPCR検査陽性者数と産婦人科・小児科オンライン相談数の推移



新型コロナ関連相談

①新型コロナ関連の相談割合

	小児科医		産婦人科医		助産師		
	コロナ関連相談 件数 (件)	全相談に占め る割合 (%)	コロナ関連相 談件数 (件)	全相談に占め る割合 (%)	コロナ関連相 談件数 (件)	全相談に占め る割合 (%)	
リアルタイム 相談	LINEメッセージ	94	3	67	4	15	3
	LINE音声通話	70	4	64	5	25	3
	LINEビデオ通話	59	4	5	13	4	5
	電話	10	4	36	8	9	5
	いつでも相談	348	2	181	3	71	2
	総計	581	3	353	4	124	3

*新型コロナ関連相談：事前問診でユーザーが「新型コロナウイルスに関する相談」を選択/事前問診文言の中に「コロナ」という単語が出てきた相談

結果

期間中の相談の中で、新型コロナ関連相談は3-4%であった

考察

「自分や子どもが今新型コロナに感染しているか心配」という相談は、ほとんど寄せられなかった。役割分担としてこうした相談は、接触者相談センターなどに集中した可能性が高い。他方、産婦人科・小児科オンラインへは「新型コロナによって病院を受診しにくいためにオンラインで相談した」という相談が多く寄せられた。この傾向より、産婦人科・小児科オンラインは新型コロナか否かの相談よりも、新型コロナによって変化した生活様式の影響で取り残された国民の健康不安があり、そうした不安解消ニーズに応える役割を中心に担ったことが推測された



新型コロナ関連相談

②新型コロナ関連の相談であったか n= 36,416

		オッズ比	P値	[95%	信頼区間]	
対応者	小児科医	1.00				
	産婦人科医	1.36	<0.01	1.18	1.56	
	助産師	0.96	0.70	0.79	1.18	
接続方法	リアルタイム相談	LINEメッセージ	1.00			
		LINE音声通話	1.27	0.03	1.02	1.59
		LINEビデオ通話	1.20	0.21	0.90	1.61
		電話	2.00	<0.01	1.45	2.75
		いつでも相談	0.88	0.14	0.74	1.04
相談月		5月	1.00			
		6月	0.47	<0.01	0.41	0.55
		7月	0.25	<0.01	0.21	0.29
		8月	0.13	<0.01	0.10	0.16

*コロナ関連の相談 yes/noの二値変数を結果変数とし、相談員種別、接続方法、相談月で調整した多変量ロジスティック回帰分析

結果

産婦人科医への相談と新型コロナ関連相談が有意に関連があった

新型コロナ関連相談は、有意に5月が最も多く、以降漸減した

考察

新型コロナは子どもたちの重症化が少ない、といった情報も流れており、産婦人科領域のほうが新型コロナに関する疑問、不安が大きかった可能性がある

緊急事態宣言下での社会不安、混乱が最も大きく、その後徐々に減少したことが考えられる



新型コロナ関連相談

③【産婦人科】新型コロナ関連の相談と妊娠状況の関係 n= 14,571

	オッズ比	P値	[95%	信頼区間]
妊娠中	1.00			
産後	0.49	<0.01	0.37	0.63
婦人科	0.51	<0.01	0.40	0.65

*コロナ関連の相談 yes/noの二値変数を結果変数とし、相談員種別、接続方法、相談月、妊娠状況で調整した多変量ロジスティック回帰分析

結果

産婦人科医への相談の中でも妊娠中の方からの新型コロナ関連相談が有意に多かった

考察

新型コロナ流行は成人での流行を中心にニュースで取り上げられていた状況、妊娠への影響、就労状況との関連、自粛によるストレスの増大など、自身や胎児の健康と新型コロナの関連を最も強く心配したのは妊娠中の女性であった可能性がある



ユーザーからの反響

①【利用後アンケート*】 今後も本サービスをご使用になりたいと思いますか？ n= 16,877（回収率 46%）

		小児科				産婦人科				助産師			
		思う	どちらかといえば思う	どちらかといえば思わない	思わない	思う	どちらかといえば思う	どちらかといえば思わない	思わない	思う	どちらかといえば思う	どちらかといえば思わない	思わない
リアルタイム相談	LINEメッセージ	1364	65	2	2	488	48	6	2	120	19	1	1
	%	95.2	4.5	0.1	0.1	89.7	8.8	1.1	0.4	85.1	13.5	0.7	0.7
	LINE音声通話	954	25	1	0	481	24	3	2	357	16	3	0
	%	97.4	2.6	0.1	0	94.3	4.7	0.6	0.4	95	4.3	0.8	0
	LINEビデオ通話	940	28	1	0	18	3	0	0	39	1	0	0
	%	97	2.9	0.1	0	85.7	14.3	0	0	97.5	2.5	0	0
	電話	105	3	0	0	125	10	0	0	71	5	0	1
	%	97.2	2.8	0	0	92.6	7.4	0	0	92.2	6.5	0	1.3
	いつでも相談	7190	299	4	4	2473	166	15	0	1272	107	7	6
	%	95.9	4	0.1	0.1	93.2	6.3	0.6	0	91.4	7.7	0.5	0.4

*リアルタイム相談では相談翌日18時にメールで回収、いつでも相談では回答を開封した1時間後にメールで回収

結果

4段階のうちの最高評価「思う」が85.1-97.5%。「どちらかといえば思う」までを含めると、100-98.5%であった

考察

相談者のほとんどは、相談に対して満足をし、今後も継続して利用したいと回答した。オンラインという接点であったとしても、高いレベルでユーザーの満足を得ることができることがわかった



ユーザーからの反響

②【利用後アンケート*】 疑問は解決できましたか？ n= 16,671 回収率 46%

		小児科				産婦人科				助産師			
		解決できた	ほぼ解決できた	一部解決できた	解決できなかった	解決できた	ほぼ解決できた	一部解決できた	解決できなかった	解決できた	ほぼ解決できた	一部解決できた	解決できなかった
リアルタイム相談	LINEメッセージ	975	377	81	2	283	190	59	12	60	56	22	5
	%	67.9	26.3	5.6	0.1	52	34.9	10.85	2.2	42	39.2	15.4	3.5
	LINE音声通話	636	275	64	7	277	182	40	9	197	139	38	2
	%	64.8	28	6.5	0.7	54.5	35.83	7.9	1.8	52.4	37	10.1	0.5
	LINEビデオ通話	701	223	42	2	13	7	1		20	16	4	
	%	72.4	23	4.3	0.2	61.9	33.3	4.76		50	40	10	
	電話	81	21	5	1	73	44	17	1	32	31	12	2
	%	75	19.4	4.6	0.9	54.1	32.59	12.6	0.7	41.6	40.3	15.6	2.6
	いつでも相談	4365	2402	522	51	1383	882	313	39	644	469	231	33
	%	59.5	32.7	7.1	0.7	52.9	33.7	11.96	1.5	46.8	34.1	16.8	2.4

*リアルタイム相談では相談翌日18時にメールで回収、いつでも相談では回答を開封した1時間後にメールで回収

結果

4段階のうちの最高評価「解決できた」が41.6-72.5%。
「ほぼ解決できた」までを含めると、80.9-95.4%であった

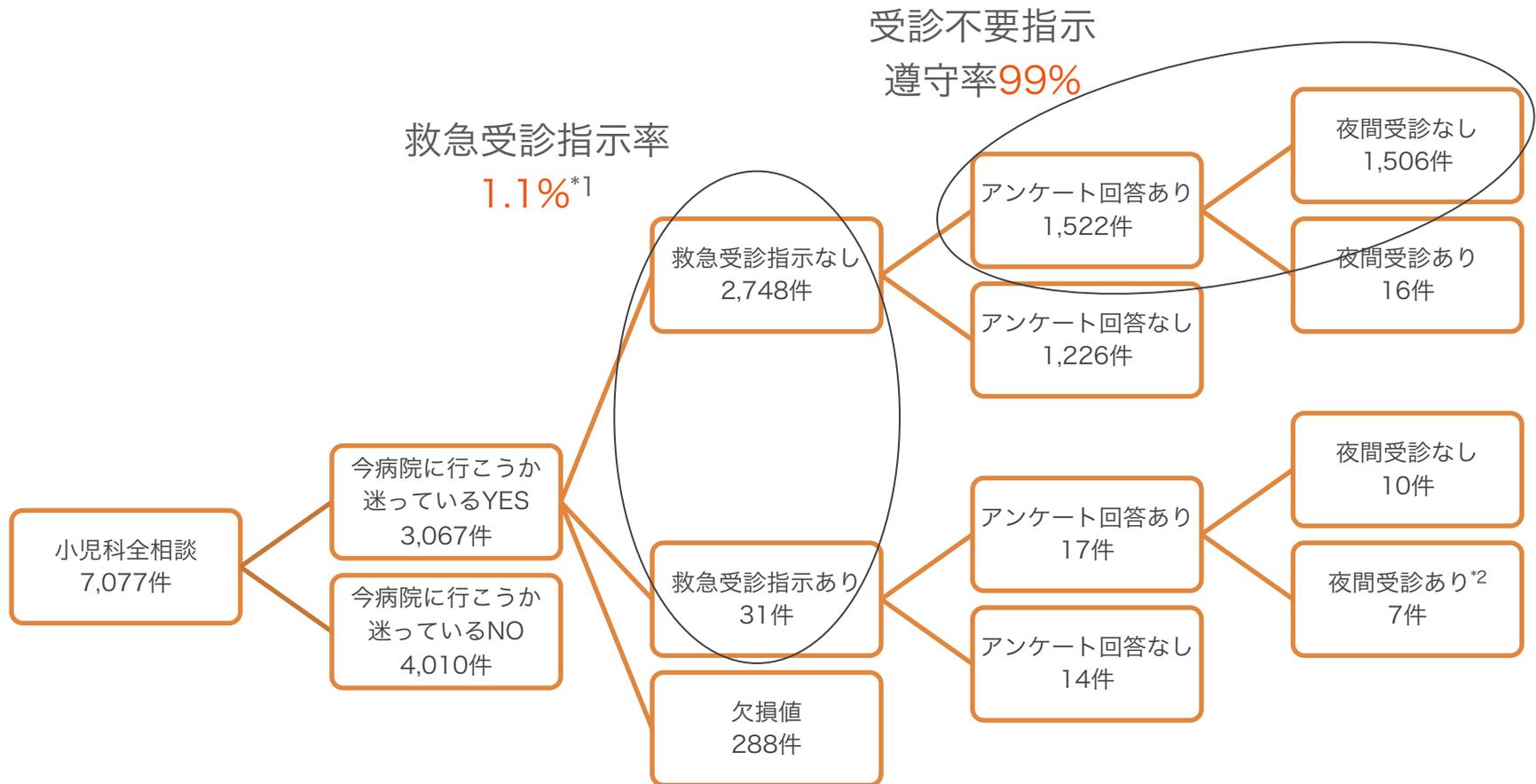
考察

遠隔健康医療相談という形態であっても、専門性の高い相談員が対応することで高いレベルでユーザーの疑問解決を達成できることがわかった



受診行動（小児科, 全期間）

ほぼ全員が小児科医の指示通り不要不急の受診を控えた



*1 #8000 では19.9%

*2 2例はそのまま入院（蜂窩織炎、尿路感染症）



利用者の声



利用者の声

総括

- いつでも相談、リアルタイム相談の合計36,416件の相談に対して6,792件の利用者の声が届きました。
- 6,792件は、ほとんどがポジティブな声であり、ネガティブな声*は17件でした。
- 下記のようなコメントが目立ちました。
 - 専門家に相談できてよかった
 - 信頼感がある
 - オンラインがよい、自宅で相談できてよい
 - 丁寧な回答がよい
 - ビデオ通話がよい
 - 小さな心配事も聞けるのがよい
 - 写真を貼れてよかった
 - 回答が早かった
 - 非対面だからよい

*今後も利用したいかの質問に対して「思わない/どちらからといえば思わない」かつ同じ相談員にまた相談したいかの質問に対して「思わない/どちらからといえば思わない」と回答のあった38件のうち利用者の声を書かれていたものを集計



利用者の声（抜粋）

- 「今回、新生児の赤ちゃんについて、相談させていただきました。新生児ですし、ましてやコロナが心配な時期でもあり、あまり無駄に病院に行きたくなかったのも、オンラインで先生に相談できるサービスは本当に助かりました」（小児科医への相談）
- 「テレビ電話を利用して相談しました。子どもの様子を見てもらったうえでのアドバイスだったので安心しました」（小児科医への相談）
- 「緊急事態宣言が出ている地域でもあり、受診には慎重になっていました。このサービスでは在宅で専門医の的確な回答が得られるので、安心安全に健康管理ができると思いました」（産婦人科医への相談）
- 「こんなことくらいで、と聞きにくいけど聞きたいことも聞きやすく、ラインのチャットでの相談では、緊張して聞き忘れた、聞きたい事を言えなかったということが軽減され納得できるまで聞いてよかったです。」（小児科医への相談）
- 「産院に行って相談するような病的な問題ではないけど、赤ちゃんのことでどうしたらいいか悩んでいた問題を助産師さんという専門家に気軽に相談することができ、さらに的確なアドバイスをしてもらえて、気持ちも楽になったし、問題解決の糸口が見つかって、生活も楽になりました」（助産師への相談）
- 「自治体のイベントや相談会が中止になっている中で不安ばかり募っていました。そんな中、助産師さんに直接相談することができて、とても安心しました。」（助産師への相談）

サービス事業者として 遵守，重視している事項



弊社の採用基準、質の担保の取り組み

勤務開始前後共に全て専門の医師、助産師の目で評価

採用基準：小児科、産婦人科での臨床経験4年以上



小児科医、産婦人科医、助産師それぞれの代表者による採用面接



小児科医、産婦人科医、助産師による勤務開始前のマニュアル読み合わせ



小児科医、産婦人科医、助産師が相談対応および相談者からのアンケート結果を確認のうえ、勤務開始後のフィードバック



取り組みの詳細

採用方法	<ul style="list-style-type: none"> ・運営統括小児科医、産婦人科医、助産師が面接を実施し、採用の可否を決定 ・運営統括小児科医、産婦人科医、助産師のネットワークを活かして口コミやインバウンドの問い合わせによって採用 ・日本医師会の女性医師バンクを通じた採用も実施
採用時の試験の内容（主な項目）	<ul style="list-style-type: none"> ・事業への共感をお持ちいただけること ・産婦人科医、小児科医、助産師として4年以上勤務歴があること ・オンライン相談の質の向上にご協力いただけること ・安定したインターネットがあること ・同じ個室空間での対応が可能であること ・webページでの顔写真、実名、プロフィールの公開が可能であること
採用時の資格確認	<ul style="list-style-type: none"> ・医師免許、助産師免許の登録番号の提出 ・専門医資格を有する場合は専門医番号の提出
相談者対応者の診療科目のルール	<ul style="list-style-type: none"> ・標榜科は1医師、1助産師に対して小児科もしくは産婦人科のうちいずれか一つの科のみ ・小児科もしくは産婦人科以外の科目は受付しない
回答内容のマニュアル化	<ul style="list-style-type: none"> ・小児科は2016年のサービス開始時から、産婦人科は2018年のサービス開始時からマニュアル化を実施し、周知徹底を行なっている
回答内容のモニタリング	<ul style="list-style-type: none"> ・相談業務開始1,2か月時点で全員に対して回答内容を運営小児科医、産婦人科医、助産師が専門家の目で評価し、フィードバックを実施 ・利用者アンケートの結果、低評価であった相談をピックアップして運営小児科医、産婦人科医、助産師が精査。必要があれば該当する相談員へフィードバックを実施 ・相談員へは、毎週利用者アンケートの結果を全例メール送付
遵守している法令等	<ul style="list-style-type: none"> ・厚生労働省「オンライン診療の適切な実施に関する指針」 ・厚生労働省「医療情報システムの安全管理に関するガイドライン第5版」(平成29年5月発行) ・経済産業省「医療情報を受託管理する情報処理事業者における安全管理ガイドライン」(平成24年10月発行) ・総務省「クラウドサービス事業者が医療情報を取り扱う際の安全管理に関するガイドライン（第1版）」（平成30年7月発行） ・個人情報保護法 ・DV防止法 ・日本周産期メンタルヘルス学会「周産期メンタルヘルス コンセンサスガイド」 ・児童虐待防止法
指導・対応体制	<ul style="list-style-type: none"> ・社内に臨床経験および遠隔健康医療相談の経験が豊富な医師、助産師によって構成されたQuality Control Team (QCT)を持ち、専門家の目で、相談員の対応の質を管理している ・QCTは利用後アンケートの集計、相談カルテの確認、好ましい対応を行うためのTipsのメーリスでの送付を行なっている ・QCTは専任の小児科医を含むメンバーで構成され、月に1回全体ミーティングを実施している ・QCTでは、初回勤務後1,2か月の時点での相談員へのフィードバックに加え、ランダムな随時評価も実施している ・勤務開始前の面談でQCTの活動は全相談員へ告知し、その活動への協力を参加の必須条件としている
その他、事業を遂行する上で気をつけている点	<ul style="list-style-type: none"> ・五十嵐隆先生（国立成育医療研究センター理事）をはじめ公式アドバイザーとして小児科医、産婦人科医として権威ある先生方に就任いただき、事業報告を密に実施し、ご指導いただいている ・医療、アカデミアへの貢献を重視。2020年も小児科学会総会に2演題を提出し、発表を行う ・2020年9月より東大、横浜市と共同で横浜市港北区における2か年のSIBに参加し、エビデンスの創出を目指す ・2020年6月より山口県長門市、美祢市において厚労省科研費研究に参加し、エビデンスの創出を目指す ・利用者の利用後の受診行動も利用後アンケートで把握している。「受診不要」と伝えただで見逃して緊急入院になってしまった例がゼロであることを確認している ・運営者が小児科医、産婦人科医、助産師という当事者であるため、相談員の質の評価が専門性を持って実施可能。また、大抵は面識のある関係性の中のネットワークで相談員を構成できるため、実臨床の実力が十分あり、信頼性がある医師、助産師であるかを多方面から情報収集可能であり、実力があり、信頼できることが判明している医師、助産師を採用できていることが何よりの強み

これまでの学会発表・研究

論文

1. 重見大介：妊産婦を対象とした遠隔健康医療相談システムの開発と試験運用の報告. 東京産科婦人科学会会誌 2019;68(2):143-148
2. 橋本直也：スマホで小児科医に相談「小児科オンライン」. 小児内科 2020;52(5):687-689
3. 深澤祐援, 橋本直也：医療相談文章を対象としたアノテーションノイズを考慮する文章分類に基づく緊急性予測. 第34回人工知能学会全国大会論文集 2020

口演

1. 橋本直也, 安藤友久, 千先園子, 柳川侑子, 田中俊之, 森臨太郎：小児科専門医によるインターネット小児医療相談事業に関する後方視的検討. 第120回日本小児科学会学術集会, 東京, 2017.4.16
2. 田中俊之, 安藤友久, 橋本直也, 森臨太郎：保育園グループに対する小児遠隔医療相談事業導入の後方視的検討. 第6回日本小児診療多職種研究会, 沖縄, 2017.11.3
3. 橋本直也, 安藤友久, 田中俊之, 森臨太郎：小児科医によるインターネット小児遠隔健康医療相談利用後の受診行動に関する検討. 第28回日本外来小児科学会年次集会, 東京, 2018.8.25
4. 橋本直也：遠隔健康医療相談「小児科/産婦人科オンライン」これまでの取り組みのご紹介. 岩手県立病院医学会医療情報分科会, 岩手, 2018.10.29
5. 橋本直也：【招待講演】遠隔健康医療相談『小児科オンライン』『産婦人科オンライン』-妊娠・子育てにおいて誰も孤立しない社会を目指して-. 第22回日本遠隔医療学会学術大会, 福岡, 2018.11.10
6. 重見大介：妊産婦を対象とした遠隔健康医療相談システムの開発と試験運用の報告. 第388回東京産科婦人科学会例会, 東京, 2018.12.15
7. 太田愛：妊産婦を対象とした遠隔健康医療相談事業の運用を開始して. 第37回千葉県母性衛生学会学術集会, 千葉, 2019.05.25
8. 重見大介：産褥婦に対する遠隔健康医療相談の需要と安全性について. 第137回関東連合産科婦人科学会学術集会, 東京, 2019.06.16
9. 橋本直也：遠隔健康医療相談後に緊急入院となった相談例に関する考察. 第66回日本小児保健協会学術集会, 東京, 2019.6.21
10. 橋本直也：スマートフォンから医師に相談できる「産婦人科・小児科オンライン」一大船渡市・陸前高田市・住田町における取り組みについて-. 第58回岩手県小児保健学会並総会, 岩手, 2020.2.8
11. 深澤祐援, 橋本直也：医療相談文章を対象としたアノテーションノイズを考慮する文章分類に基づく緊急性予測. 第34回人工知能学会全国大会, オンライン開催, 2020.6.11
12. 岡本賢, 橋本直也, 田中俊之：ICTを活用した小児遠隔健康医療相談における受診指示の内訳. 第123回日本小児科学会学術集会, オンライン開催, 2020.8.21
13. 橋本直也, 竹原健二：スマートフォンを活用した小児遠隔健康医療相談における疑問解決に関わる因子の検討. 第123回日本小児科学会学術集会, オンライン開催, 2020.8.21



Kids Public

Mission

子どもたちの生涯にわたる健康を守り、
その向上に貢献する

Vision

生まれ来る全ての子どもたちに届く
サービスを作る

Value

生活圏において成育医療をより身近なものとする
子育てにおいて誰も孤立しない社会をつくる
産前産後の切れ目ないケアを重視する
成育医療の質の向上に貢献する
成育医療におけるエビデンスの創出を行う



会社概要

会社名	株式会社Kids Public
所在地	〒101-0052 東京都千代田区神田小川町1-8-14 神田新宮嶋ビル4階
設立	2015年 12月
代表者名	橋本 直也（小児科医）
事業内容	インターネットを介した成育医療
従業員数	65名（2018年10月現在）
受賞歴	2016.8 Open Network Lab 12 th Batch Demodayオーディエンス賞 2016.11 TechCrunch Tokyo 2016「スタートアップバトル」優勝(114社中) 2017.3 東京都から有限責任監査法人トーマツが委託を受けて運営する「ASAC Batch3 Demo Day」優勝 2017.9 第11回キッズデザイン賞にて経済産業大臣賞を受賞 2017.11 第6回健康寿命をのばそう！アワードにて厚生労働大臣賞を受賞
問い合わせ先	contact@syounika.jp

